

はじめに

初めて区の基本計画である「伏見区基本計画」を策定してから10年の歳月が流れました。この最初の「伏見区基本計画」は、「水と緑と温もりでひらく都市—伏見」を将来像とし、伏見のまちが育んできた「水」、「緑」、「温もり」を力として、南に「ひらき」、花が「ひらき」、新世紀に「ひらく」、新しい伏見区の都市（まち）の発展をめざしました。この間、市営地下鉄東西線の延伸や京都高速道路の整備など区民生活の基盤を支え、まちの発展につながる事業が実施され、区内各地で区民の皆様が主役のまちづくりが進むなど一定の成果を得ることができました。一方、私たちを取り巻く世界は、地球環境問題の深刻化、経済のグローバル化の進展、少子高齢化の急速な進行と人口減少社会の到来など、未だかつて経験したことのない新たな時代を迎えています。また、価値観の多様化、家族規模の縮小、自治会活動の担い手の高齢化、NPOや多くのボランティア団体の活躍など、私たちの生活を支えていた様々な制度、習慣も大きく変化してきました。伏見区にもその波は押し寄せつつあり、すべての地域で多くの今日的な課題が生じ、また地域の特性から生じる様々な課題も新たな局面を迎えつつあります。この10年間の状況の変化は極めて多様でそれぞれ複雑な背景を抱えており、もはや行政だけで解決を図れないものが少なくありません。

こういった状況をふまえて、新たな「伏見区基本計画」においては、前計画がめざした「ひらく」都市（まち）づくりを継承しつつも、伏見に住みたい、住み続けたいと思える魅力あるまちにするために、住むまちとしての成熟度を高めることをめざして、「水と緑と温もりのまち「伏見ですむ」」を新たな将来像として掲げました。この「伏見ですむ」の意味は、私たちがこれからも伏見のまちに住み続けることを前提に、私たち一人ひとりが環境にできるだけ負荷をかけず、これまで育んできた歴史や文化、産業を守り伝え、様々な人々と共生し、互いに助け合って暮らしていく、そのような社会を築いていこうということを表現しています。

そして、これを実現するためには、伏見で住む人、働く人、その他伏見区に関わる様々な人や団体が、伏見のあるべき姿、その実現のためのそれぞれの役割、踏み出すべき行動を共有することが大切です。そのため、この伏見区基本計画は、単なる「行政計画」ではなく、様々な主体と行政が共に汗するための「共汗型計画」と言うべきものでなければなりません。そこで、策定に当たって、概ね生活圈ごとに地域住民の皆様による住民円卓会議を設置し、地域の特徴や課題、未来への夢を語っていただくとともに、子どもたちを含めた区民アンケートを実施するなど、多くの方々に計画策定に関わっていただきました。

伏見区基本計画は、伏見で住み、働き、活動するすべての主体が、まちづくりを担う主人公として現実に行動を起こすことで初めて意味を持つものです。来るべき時代に、伏見が豊かな自然と共存した温もりのある、住民として誇れるまちであり続けるために、共に手を携え、できる一歩から行動していきましょう。

伏見区基本計画策定委員会

1 伏見区の姿

1-1 伏見区全域の現状特性と課題

(1) 環境

●環境先進区としての伏見

- ・クリーンセンターや水環境保全センターなど環境関連施設が多く立地し、京都市の市民生活や産業活動の基盤を支える極めて重要な役割を担っています。一方で、これら施設の近隣の生活環境の改善や施設との共生が課題となっています。
- ・環境保全活動センター（京エコロジーセンター）など環境教育施設を中心に、環境啓発活動が活発に展開され、ごみ減量やリサイクル活動等が進展しています。また、地域ぐるみの美化活動として、大岩山周辺の美化活動や河川レンジャー（※）等による取組が行われるなど、区民の環境意識が高まっています。
- ・京都市では、環境モデル都市としてらくなん進都（高度集積地区）、横大路地域における低炭素型まちづくりをめざしていますが、区内の公共交通が十分でない地域では自動車への依存度が高い傾向があります。

※河川レンジャー・・・住民からの公募により国土交通省から任命された河川行政と住民とのつなぎ役。住民が川に親しむための取組等を行っています。

(2) 魅力・個性（自然・歴史等）

●伏見独自の歴史・文化が育まれてきたまち

- ・人の営みと共に歴史の中で育まれてきた神社仏閣などをはじめとした歴史的資源が数多く点在しています。なかでも醍醐寺は世界文化遺産に登録されており、周辺の丘陵の緑と相まって落ち着いた中に風格のあるたたずまいを見せています。
- ・旧市街地では、古くは城下町や港町、街道筋、門前町として発展してきたことから、町家など歴史的な町並みが多く残るなど、特徴的なたたずまいを見せています。
- ・また、伏見の水が育んだ地場産業ともいべき酒造業が宇治川派流付近に集積しており、酒蔵の町並みと共に、「伏見の酒」のイメージがまちの個性ともなっています。

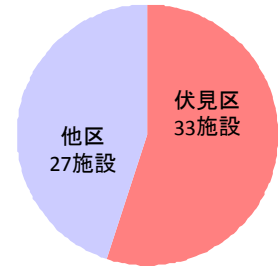
●水（河川）と緑（丘陵）が広がる豊富な自然環境

- ・西部に桂川、鴨川、宇治川の三川が合流する地域があり、東高瀬川や疏水など人工河川もまちなかを流れています。これら多くの河川と豊富な地下水などにより、澄んだ「水」が伏見のイメージともなっています。
- ・桃山丘陵や稻荷山周辺、醍醐寺周辺には緑豊かな丘陵が広がり、市街地に近接した緑地となっています。こうした水と緑の豊富な自然資源が身近にあるものの、まちなかの河川や道路、公園など、より身近に水と緑に親しめる環境づくりが求められています。

●魅力ある資源の保存と活用

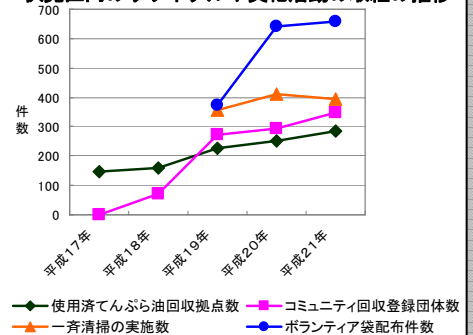
- ・地域には、まだ広く知られていない歴史遺産や自然があり、これらの活用を図りつつ次世代に守り伝えていく必要があります。

環境関連施設立地状況（平成22年1月現在）



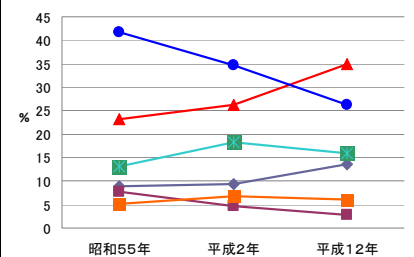
出典：京都市産業廃棄物処理業許可業者名簿ほか
※民間事業者の施設のほか、市施設（クリーンセンター、水環境保全センター等）を含む

伏見区内のリサイクルや美化活動の取組の推移

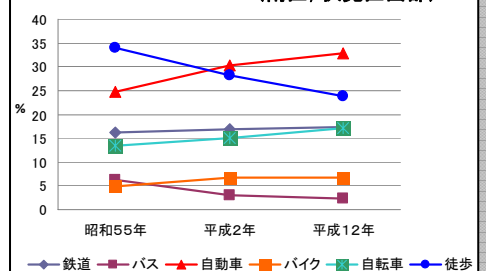


資料：京都市環境政策局

交通手段別分担（依存）率
（山科区、伏見区東部）



交通手段別分担（依存）率
（南区、伏見区西部）



資料：京阪神都市圏パーソントリップ調査

(3) 活力（伏見力）

●多種・多彩な産業活動（伏見力）

- ・大手筋や街道筋などの商店街は、これまで生活に密着した商業地域として区民の暮らしを支えてきましたが、近年、郊外型の大規模商業施設等の立地や少子高齢化の進展による購買層の減少から、個人商店（地場商店）の減少による没個性化や活力の低下が懸念され、活気を取り戻す努力が重ねられています。
- ・らくなん進都（高度集積地区）では、「新しい京都を発信するものづくり拠点」として世界に通用する技術力を有するものづくり企業の集積をめざしています。
- ・地域資源を活かし、地域と共存共栄する地域密着型の産業振興が模索されています。

●都市近郊の農業

- ・桂川沿いや宇治川左岸の巨椋池干拓地には良好な田園が広がっていますが、近年住宅地開発や都市基盤施設の整備などにより、取り巻く環境が変化しており、都市の身近な農地として市街地環境との共生が課題となっています。
- ・また、こうした近郊の農地では、米、茶、伏見とうがらし、畑菜、淀大根、九条ねぎ、たけのご等が生産されており、地域ブランドとして販売が行われるなどの動きもあります。

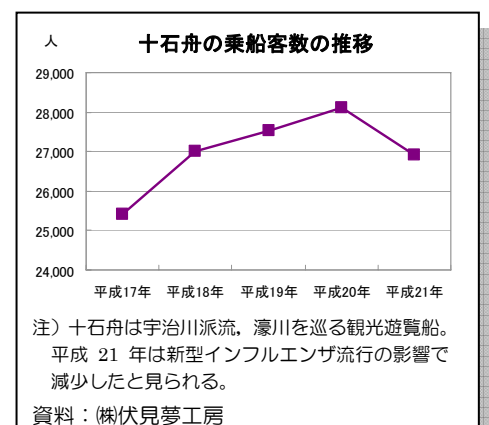
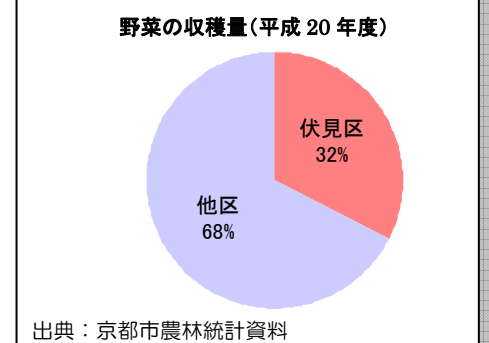
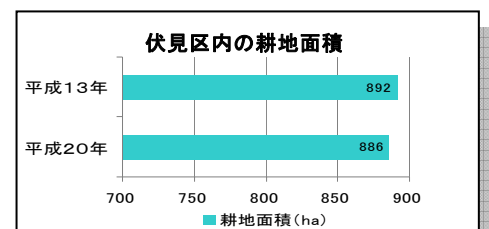
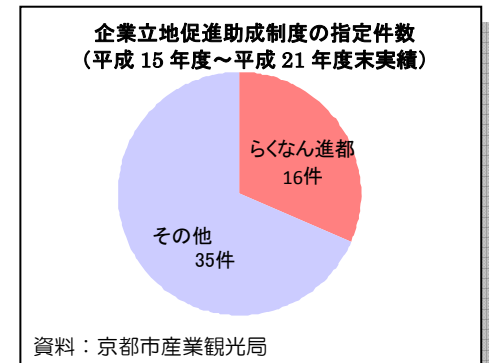
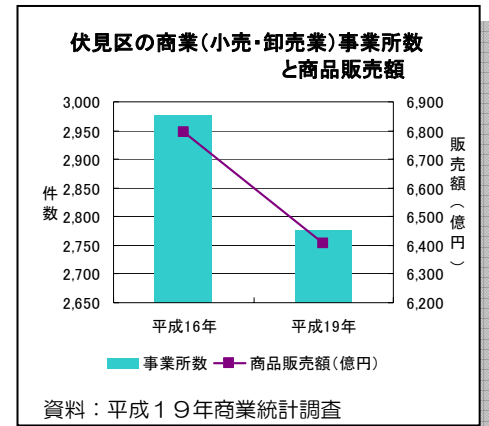
●観光客の受け入れ環境

- ・伏見区には、世界文化遺産である醍醐寺、伏見稲荷大社、御香宮などの数多くの社寺や、酒蔵、町家など歴史的町並みが残り、それらを訪れる観光客が増加していますが、広範囲に分布する地理的条件や交通利便性の問題、来訪者に対する案内の不足、区内に宿泊施設が少ないことなどがあり、受け入れ環境の向上が課題となっています。
- ・観光資源のネットワーク化、情報発信力が不足しています。

(4) 地域福祉・コミュニティ

●地域活動と担い手

- ・新たな住宅地の形成やマンションの建設などにより、新住民が増加している地域を中心に自治会等の組織化が困難になっています。また、少子高齢化の進展による地域活動の担い手の減少などにより、地域活動の維持が困難になりつつあります。
- ・また、地域の老若男女が気軽に集まるサロンのような場が求められています。伏見区総合庁舎に新たに設置された区民交流スペースの更なる活用など、地域コミュニティが活動する核となる「場」が必要です。
- ・一方で、地域での高齢者や子どもを見守る取組が進みつつあります。
- ・ニュータウンなどにおいては、独り暮らしの高齢者の孤立化などの問題や、中国帰国者等言葉の壁によるコミュニティ形成の困難さが課題となっています。



●地縁と志縁活動のつながり

- ・伏見区は、地域の自治会をはじめ、各種団体の活動が活発です。また、環境、福祉、まちづくりなど様々な分野で、NPO（非営利活動法人）やボランティアの活動も盛んな地域で、大学等も地域で活動を展開しています。
- ・こうした市民活動それぞれの活動は活発でも、相互の連携や交流の機会は比較的少なく、お互いがお互いの活動をあまり知らないという課題があります。

●子育て環境

- ・共働き家庭の増加等による近所付き合いの希薄化や核家族化の進行により、子育て世代が孤立化しやすい現状があり、こうした世代に対する支援が必要になっています。

●隣接する区外地域への生活圏の広がり

- ・醍醐地域と山科区、向島地域と宇治市、久我・羽東師地域と長岡京市など、住民生活では区域を越えた広がりが見られます。

(5) 安心安全・利便性

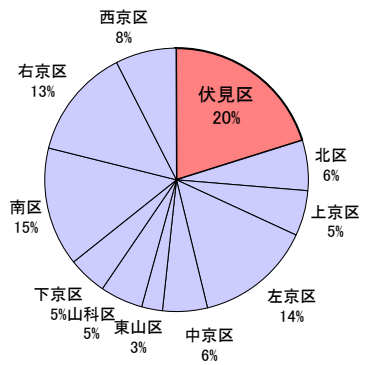
●交通の利便性

- ・桃山丘陵を囲む形で鉄道路線は充実していますが、それ以外の地域での公共交通はバスへの依存度が高くなっています。それらの地域でも運行本数や経路などから利便性に格差があります。
- ・特に、東西方向や、西部地域の南北移動、市バス・地下鉄の接続については、利便性の向上が強く求められており、これらの問題等の解消が課題となっています。

●安心・安全な暮らし

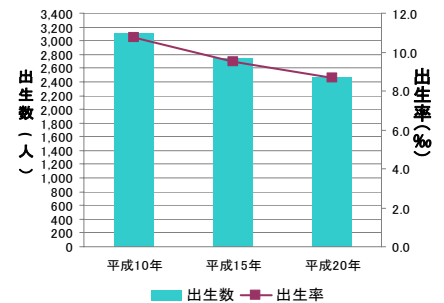
- ・駅周辺における駐輪場不足による放置自転車問題は、伏見区に限らず共通の問題となっています。これら放置自転車は、道路上の歩行者空間を狭くし、歩行者の安全を阻害する要因ともなっていることから、歩行者の安全な通行の確保が必要となっています。
- ・また、伏見区に特有の課題として、道路が狭くかつ交通量が多いという問題があり、生活道路への通過交通の流入の抑制や歩車分離が求められています。
- ・小規模住宅開発が急速に進行する地域においては、都市基盤整備など含め計画的なまちづくりが求められています。
- ・自然環境に配慮しつつ、河川の氾濫や大規模地震などへの対策を講じる必要があります。

外国人登録者数(平成22年4月現在)



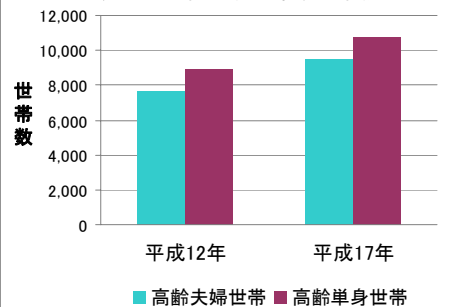
資料：京都市総合企画局

伏見区における出生数と出生率の推移 (人口千人当たりの出生数)



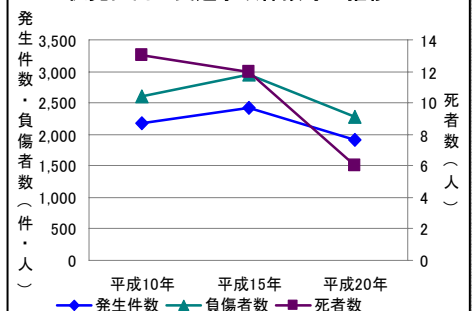
出典：京都市統計書

伏見区内の高齢者世帯数の推移



出典：地域統計要覧

伏見区内の交通事故件数等の推移



出典：京都市統計書

1-2 地域別の現状特性と課題

住民円卓会議での議論やアンケート等の意見などを踏まえ、地域ごとの特徴やまちの課題を整理しました。

(1) 旧伏見市(※)・竹田・桃山地域

まちの自慢や特徴

- ・城(跡)や御陵, 社寺や酒蔵, 伝統的な町家など歴史遺産が多く集積する地域である。
- ・商店街がいくつもあり(大手筋, 納屋町, 竜馬通り商店街等), 利便性の高い地域である。
- ・幹線道路に近く, 鉄道も複数路線が通り, 交通が比較的便利である。
- ・子ども見守り活動や学校行事等に地域が協力的である。
- ・集会施設等が充実し, 住民の結びつきが強い地域である。



まちの気になること(まちの課題など)

- ・多くの観光資源があるが, 観光地としての面的な広がりが弱く, うまく活用されていない。
- ・マンションの増加や, 自治会加入率の低下から, 活動等の担い手不足が生じ, 自治会運営が困難になってきた。
- ・駐輪場やバリアフリー化など鉄道駅周辺の環境整備が行き届いていない。
- ・幹線道路の渋滞を避けて生活道路や通学路に通過交通が入り込んでいる。
- ・マンションの増加による新住民拡大の一方で従前からの居住者の高齢化が進行している。
- ・まちなかの緑が不足している。

※旧伏見市・昭和4年に伏見町が市制施行されて伏見市になり, 昭和6年に他の町村とともに京都市に合併・編入され, 伏見区が誕生しました。旧伏見市の区域は現在の住吉学区, 板橋学区, 南浜学区に相当します。

(2) 下鳥羽・横大路・納所・淀地域

まちの自慢や特徴

- ・歴史的な資源を訪れる観光客は多いが, 競馬場のイメージが大きい地域である。
- ・府道京都守口線の両側の農地等は, 住宅地と工業用地との緩衝地として大切な存在である。
- ・市域を超えて(八幡市, 久御山町等)様々な人との交流がある。
- ・高速道路へのアクセスがよいので, いろいろな地域との行き来がしやすい。
- ・河川レンジャーなど環境美化の取組が盛んである。
- ・京阪淀駅の高架化と周辺整備が行われている。





まちの気になること（まちの課題など）

- ・工場等の進出や主要道路の集中などから、周辺環境維持が不安である。
- ・適切な土地利用の誘導が必要である。
- ・阪急やJR等の駅を利用したいが、バス等公共交通のアクセスが不便である。
- ・桂川、宇治川、木津川の三川が集まる地域であり、水害時に不安がある。
- ・子どもを安心して遊ばせることができる公園が少ない。

（3）久我・久我の杜・羽束師地域

まちの自慢や特徴

- ・古くからある神社など歴史的資源が多く、それらを見に来る来訪者も多い地域である。
- ・田畑や河川があり緑が豊富な地域である。
- ・医療施設やスーパーなど生活関連施設が比較的充実していることもあり、子育てに適しており、新住民が増えている地域である。
- ・見守り隊ができてからPTAと地域の関係が良好になり、交流の機会が増えた。
- ・体育振興会の取組やスポーツチームの活動が盛んな地域である。
- ・久我菜（畑菜）など伝統野菜があり、食育活動も盛んに行われている。



写真選定中

まちの気になること（まちの課題など）

- ・地域で清掃活動が行われているが、河川や農業用水路に不法投棄が絶えない。
- ・急速な住宅地開発による農地の蚕食で、まちの景観が損なわれている。
- ・バス路線や本数が少なく不便である。
- ・都市計画道路の整備促進や土地区画整理事業などの面的手法による計画的な基盤整備が必要である。
- ・新住民の自治会加入率が低く、新旧住民の交流の機会が少ない。

(4) 向島地域

まちの自慢や特徴

- ・向島城など地域の地名に歴史的な名残がある。
- ・宇治川に面しているなど、身近に豊かな自然が多い地域である。
- ・農業が盛んで、新鮮な「食」を得ることができる。
- ・自治会の取組に対する理解が高まってきており、結束も強い地域である。
- ・高齢者や障害のある人を見守るために、安心安全ネットの取組を実施している。



まちの気になること（まちの課題など）

- ・ニュータウンは年数を経て、建物が老朽化してきた。
- ・住民の高齢化が進み、若者が少なくなっている。
- ・ニュータウンでは中国帰国者が増えているが、言語の壁や生活習慣の違いから、従前からの住民との交流が円滑に進まない。
- ・敬老乗車証を使って宇治川を越えられない。
- ・道路が狭く、緊急車両が入れないところがある。

(5) 深草地域

まちの自慢や特徴

- ・稲荷山周辺の自然（竹林など）や疏水の水辺、多くの歴史的資源がまちを落ち着いた雰囲気にしてている。
- ・鉄道が3線通り、駅が多くあり、利便性が高い地域である。
- ・医療センターや医療施設が多くあり、安心して暮らせる地域である。
- ・体育振興会や見守り隊の活動など、学校を中心とした取組が盛んな地域である。
- ・3つの大学が立地し、大学と連携した取組が行われている。



買い物客と自転車と自動車が錯綜している写真（予定）

まちの気になること（まちの課題など）

- ・ まちなかを流れる東高瀬川や七瀬川を美しくする必要がある。
- ・ 安全に避難できる避難地の確保や住民への周知が必要である。
- ・ 駅周辺の放置自転車等が後を絶たない。
- ・ 交通量が多く安心して商店街で買物ができない。
- ・ 高齢者をはじめ地域の人たちが気軽に集まれる場所が少ない。
- ・ 東西の交通がスムーズでない。

（6）醍醐地域

まちの自慢や特徴

- ・ 身近に自然が多く、住みやすい地域である。
- ・ 著名な寺院が多く、観光スポットが幾つかある。
- ・ 醍醐コミュニティバスや地下鉄東西線があり、交通の便がよい地域である。
- ・ 学校の教職員と地域の人たちがスポーツを通じて交流している。
- ・ 10小学校区の地域の連携が強く、地域の活動などがひとつになって取り組まれている。



まちの気になること（まちの課題など）

- ・ 通学路が長かったり、危険なところがある。
- ・ 公園が少なく子どもたちが安心して遊ぶ場所がない。
- ・ 山科川などを野鳥やホタルが棲めるような川にする必要がある。
- ・ 地域活動の担い手が不足している。
- ・ 団地などにおいて、高齢化が進行する中で、独り暮らしの高齢者等の孤立化が進んでいる。

1-3 10年後に向けた区民の思い

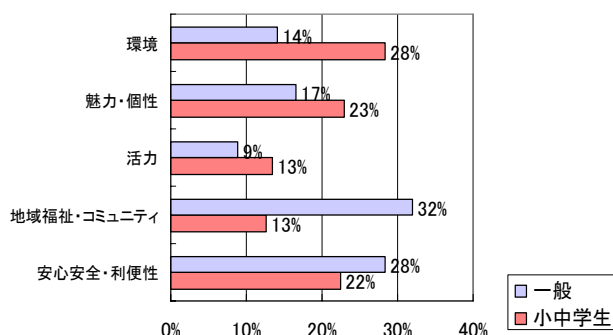
(区民アンケート結果にみる区民の思い)

区民アンケートの結果から、計画の目標年次である10年後に向けた区民等の思いを抽出しました。

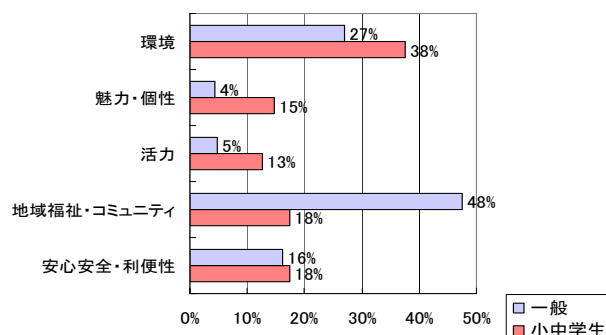
(1) 意見概要

区民アンケート(※)は、伏見区民のほか区内在勤、在学の方とともに、区内小中学生にも子ども向けのアンケートを実施しました。「10年後の伏見区の未来にとって重要なこと(10年後の理想のまち)」と「その10年後に向けて行動すること」を聞いたところ、小中学生では「環境」、一般では「地域福祉・コミュニティ」が重要視されていることがわかりました。

「10年後に向けて大事なこと」



「10年後に向けて行動すること」



※区民アンケート・平成21年11月～平成22年4月に、伏見区民のほか区内在勤、在学の方を対象に実施。また、区内小中学生には子ども向けのアンケートを実施。回収枚数は合わせて約3000通(小中学生用と一般用は約半数ずつ)。アンケートでは、次期基本計画の目標年次である10年後に向けて「重要だと思うこと」や「できると思うこと」を尋ねました。

(2) 分野別の意見の概要

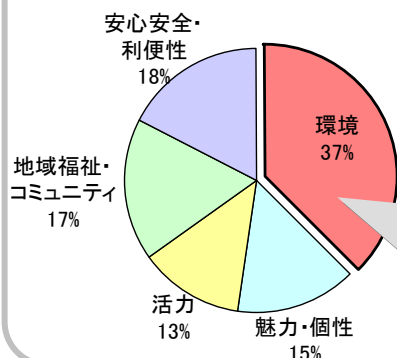
ア 環境

アンケートでは、特に小中学生の環境に対する意識の高さが伺われ、中でも川や道のごみや犬猫の糞の始末に触れた意見が多くありました。一般も含めると、ごみ問題や地球温暖化問題、身近な自然環境の保全など内容は多岐にわたりますが、自ら行動することとしては、河川や身近な緑を大切にすること、リサイクルに積極的に取り組むことなどが挙げられていました。

環境：「10年後に向けて行動すること(かなえたいこと)」

小中学生の思い

小中学生の回答の4割近くが環境に関連するものでした。学校等での環境学習による環境意識の向上が図られていることもあり、小中学生でもできる身近な行動が多いことが特徴として現れています。



「環境」に係わる主な思い

- 「みんな電気自動車に乗っていて自然が豊かなまちにしたい」
- 「車をまちなかに入れない」
- 「ゴミ捨てをしない」
- 「ごみが資源になって、「ごみ」という言葉がなくなるようにしたい」
- 「動植物を大切にしたい」
- 「空き地に木や花を植えたい」

一般の方の思い

「環境」に係わる主な思い

- 「リサイクル活動を積極的に行える地域に」
- 「省エネや公共交通を利用する暮らし方をする」
- 「川の中に波力(水力)発電装置をつくる」
- 「河川、農地、里山などの緑を保全する」
- 「不法投棄をなくす」

イ 魅力・個性

小中学生アンケートでは今のままの伏見区を残していきたいという意見や个性的なまちにしたいという意見があり、一般アンケートでは伏見らしさを構成する「河川」や「歴史」を活かし、住みやすく誇りの持てる地域にしたいという意見が多く見られました。

魅力・個性：「10年後に向けて行動すること」

小中学生の想い

「今のままの伏見区を残していきたい」
「自然の豊かさや昔まちが栄えたことを伝える施設をつくりたい」
「公園がたくさんあって、緑や花がいっぱいなまちにしたい」
「昔の家や伝統産業が残っているようなまちにしたい」
「京都らしい「和」を大切にしているまちにしたい」

一般の方の想い

「川沿いをもっと親しめて憩える空間に」
「電線の地中化など良好な景観をつくる」
「伏見は歴史のあるまち。全国へPRし、地元の人に関心を抱くよう心がける」

ウ 活力

小中学生アンケートでは、人や商店が多いにぎやかなまちを望む声が多く、ハイテクやロボットなど世界に誇れる技術を持つまちにしたいという意見もありました。また、一般アンケートでは、商店街や地場産業の活性化、特に地元で採れた野菜や伏見の清酒をもっとアピールするといった意見、伏見観光をもっと伸ばせるといった意見がありました。

活力：「10年後に向けて行動すること」

小中学生の想い

「店がたくさん並んでいて、にぎやかなまちにしたい」
「駄菓子屋がもっと増えてほしい」
「もっと酒で有名なまちにしたい」
「ロボットがいそいなまちにしたい」
「観光客が世界一多いまちにしたい」
「年中人が寄って来るような有名なまちにしたい」

一般の方の想い

「学生と町が触れ合える商店街を展開したい」
「畑が多いので新鮮な野菜を朝市などでアピールしては」
「伏見の名産品を創出する」

エ 地域福祉・コミュニティ

小中学生アンケート、一般アンケートとも、地域での助け合いや世代を超えた交流が大切であるという認識は共通していました。また、一般アンケートでは、地域の人々が気軽に集まれる場所がほしい、サークル活動がしたいといった意見や安心して子育てできる環境づくりを求める意見、地域と大学等との連携が必要といった意見がありました。

地域福祉・コミュニティ：「10年後に向けて行動すること」

小中学生の想い

「町の人に挨拶を欠かさずする」
「大人から子どもまで仲良く遊んだり、協力しあうまちにしたい」
「お年寄りの方に親切にできるまちにしたい」
「障害のある方をみんなで助け合うことができるまちにしたい」
「ボールで遊んでもいい公園がたくさんあるまちにしたい」

一般の方の想い

「老若男女があつまるイベントの実施や交流の場づくりをする」
「高齢者を講師にした市民大学を開講する」
「子どもを預けて安心して働きたい」
「地域と小中高校、大学が連携する」

オ 安心安全・利便性

小中学生アンケート、一般アンケートとも、安心して歩ける道づくりへの要望が多く見られ、車椅子でどこでも行けるようにして欲しいという切実な要望もありました。その他、小中学生アンケートでは、犯罪や事故がないまちにしたいという意見が多く、一般アンケートでは、災害時に不安があるといった意見や交通の便を良くしたいといった意見がありました。

安心安全・利便性：「10年後に向けて行動すること」

小中学生の想い

「車椅子の人がどこでもいけるようなまちにしたい」
「歩道を増やしたり道を明るくしてほしい」
「犯罪のないまちにしたい」
「電車で伏見のどこにでも行けるような便利なまちにしたい」
「バスの路線や停留所をもっとわかりやすくして観光場所に行きやすくする」

一般の方の想い

「歩行者が安心して歩ける道にする」
「地域パトロール活動をする」
「防災のネットワークづくり」
「高齢者の足として公共交通を充実する」

2 めざすまちづくりの将来像

□伏見区の将来像

水と緑と温もりのまち「伏見ですむ」

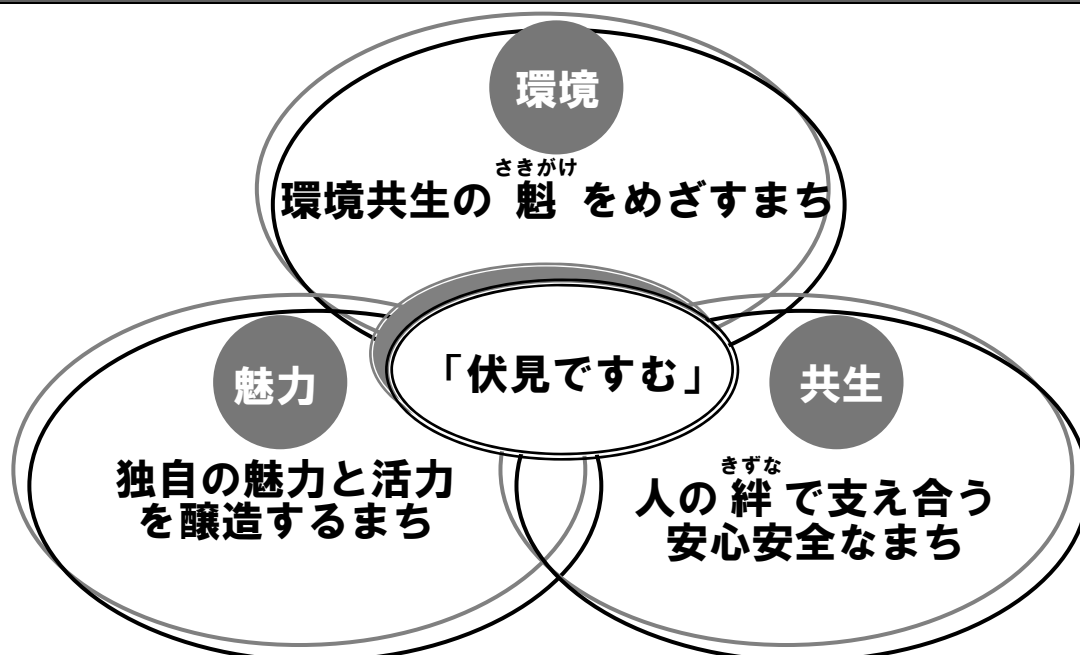
私たちはこんな伏見に住みたい、住み続けたいと思います

山の緑、青い空、ゆるやかな川の流れが**澄み**わたり、
この豊かな自然の温もりに包まれて、多彩な歴史と文化を育み、多様な生活
圏を持つまちに、人々が元気に働き、交流し、多様な動植物と共に**住む**。
暮らしと働く場が共にあり、暮らしに関わるあらゆるものが地域内で循環し、
いろんなことが区内で**済む**。
これからもずっと、やさしく生き物を包み込み、多様な人々の活動を見守る
そんな伏見のまちであってほしい。

□「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標

伏見区の将来像の実現に向けて、「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標を設定しました。

「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標



□伏見区のまちづくりの取組目標

「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標を踏まえ、「伏見区全域」のまちづくりの取組目標と「地域別」の取組目標を設定しました。

伏見区全域のまちづくりの取組目標

「伏見ですむ」ことの想いを実現するまちづくりを進めます。

- 循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の^{さきがけ}魁をめざします
- 自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します
- 伏見力を活かし、「新しい京都」のまちづくりを牽引します
- 地域のコミュニティが人を育み、すこやかな暮らしを支えるまちをめざします
- 安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします

地域別のまちづくりの取組目標

地域の特性を活かした「伏見ですむ」ことの想いを実現するまちづくりを進めます。

旧伏見市・竹田・桃山地域	“みんなが見たい、聞きたい、話したい” 歴史がいきづく元気なまち
下鳥羽・横大路・納所・淀地域	私たちがつくる 美しい水と歴史が輝く みんなが集うまち
久我・久我の杜・羽束師地域	多世代が住む 緑豊かな 誰もが好きになれるまち
向島地域	“温もりとつながり”で支え合う 安心と福祉のまち
深草地域	自然と歴史がまちを包み、 まちが「ひと」を育む成熟のまち
醍醐地域	みんなが参加し、地域で支え合う 希望と期待が満ち溢れるまち

3 「伏見ですむ」実現に向けたまちづくりの取組方針

3-1 伏見区全域の取組方針

(1) 循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の^{さきがけ}魁をめざします

伏見区には多くの先進的な環境関連施設や環境教育施設があり、環境負荷の低減に向けた様々な取組が活発に行われています。このような伏見区を京都市、全国における循環型社会の要と位置づけるとともに、「伏見ですむ」一人ひとりのエコに対する思いや行動を紡ぎ、地域、学校、企業など身近な単位からエコライフスタイル（環境への負荷を軽減する暮らし方、生き方）を実践し、環境共生・低炭素社会の魁「伏見ですみ」ます。

各主体に期待される役割

- ・ **区民（住民）**は、自らのライフスタイル（暮らし方、生き方）を環境の視点から見直し、できるところからエコライフスタイルに転換する努力をします。
- ・ **事業者等**は、自らの活動による環境負荷を減らすとともに、各々の立場から区民（住民）のエコライフスタイルへの転換を支援します。
- ・ **行政**は、区民（住民）の環境意識を高める啓発活動を行うとともに、エコライフスタイルに転換しやすい環境づくりを行います。

① 私たちは循環型社会の要を担うまちとして、「DO YOU KYOTO?（環境にいいことしていますか?）」を合言葉に、環境への負担を減らすライフスタイルの実践をめざします。

●エコライフスタイルを積極的に実践する地域づくり

「伏見ですむ」人・事業者等と行政が連携しながら、一人ひとりがその「住む」地域で省エネ、省資源、ごみ減量など環境負荷を低減するエコライフスタイルを実践し、エネルギーや資源の流れが伏見区内、地域内で「済む」ことをめざします。



具体的な取組例

- エコサポーター（京エコロジーセンターで養成される環境ボランティア）をリーダーとした地域単位、学校単位、企業単位のエコライフスタイルの実践に向けた取組（地域等ごとに目標設定を行うなど）
- 再生可能エネルギー（太陽光発電、小水力発電等）や省エネ家電、エコカー（電気自動車等）の普及促進
- ECOまちステーション（区役所・支所に設置）を拠点とした地域でのごみ減量、リサイクル活動の推進（コミュニティ回収や資源ごみの拠点回収など）

●環境関連施設を活かした最先端の環境技術開発と環境学習の推進

伏見区には、市民生活や産業活動の基盤を支える環境関連施設が集積しています。この集積を循環型社会の要を担う資源ととらえ、立地する地域との共生を図りつつ、最先端の環境技術研究や環境学習等の場として活用し、環境意識の高い「伏見ですむ」人材と環境共生・低炭素社会をリードする「伏見ですむ」産業を育てます。

具体的な取組例

- 伏見ルネッサンスプラン（※）に基づく取組の推進
- 廃棄物を利用したエネルギーの生成・活用
- エコ産業の育成
- 環境関連施設を活用した環境学習の推進

※伏見ルネッサンスプラン・・・平成19年3月に策定した横大路地域を中心とする環境再生を目指すプランです。

横大路（千両松地域）の環境関連施設の写真（予定）

② 私たちは公共交通機関を守ることを意識しつつ、「歩いて楽しいまち」づくりをめざします。

●公共交通機関の利用の推進

みんなが公共交通を利用して地域の足を守りつつ、マイカーに依存したライフスタイルから公共交通と徒歩や自転車で移動するライフスタイルに転換することで、「伏見ですむ」歩いて楽しいまちの実現をめざします。

具体的な取組例

- 公共交通機関の利用促進に向けたPR（市営地下鉄乗客5万人増に向けた取組やこれと連携した公共交通機関利用の推奨など）
- 公共交通機関と商業施設（商店街）、観光施設等がタイアップした取組の実施（レール&ショッピングなど）
- 駅等におけるマイカーから公共交通機関への乗り換え（パークアンドライド（※））の推進
- カーシェアリング（自動車の共同利用）や駅等を拠点とした自転車の共同利用の推進

※パークアンドライド・・・クルマの市街地への乗り入れを抑制し、都市の慢性的な交通渋滞を緩和することを目的として、自宅から乗ってきたクルマを、途中で駅周辺の駐車場に停めてもらい、バスや電車などの公共交通機関への乗り継ぎを促す制度をいいます。

●交通結節の強化と公共交通不便地域における対応策に関する検討

鉄道駅等のターミナル機能（※）の強化と公共交通機関のネットワーク化を図り、伏見区内の移動が公共交通の利用で「済む」ことと、区内外への交通利便性を向上させること、更には区民の相互交流と観光資源のネットワーク化をめざします。また、公共交通の不便な地域において、「伏見ですむ」人・事業者等と行政が連携し、地域の足を守り、確保していくための手段を検討し、歳を重ねても伏見で「住み」続けられるまちをめざします。



具体的な取組例

- 京阪本線淀駅のターミナル機能の強化
- 京都駅とらくなん進都を直結する高規格バスの導入
- 公共交通機関相互の連絡強化
- 公共交通不便地域における対応策の検討

※ターミナル機能・・駅等を拠点とした多様な交通手段の乗り換え，乗り継ぎ機能をいいます。

③ 私たちは水（河川），緑（里山）と共生するまちを次代に継承します。

●多様な動植物が生息する河川や里山等の自然環境の保全

宇治川や桂川の河川敷においては，野鳥など多様な動植物が生息する自然環境が今も残されています。また，醍醐地域東部の山々や桃山丘陵，稻荷山周辺においても里山の生態系などの保全と再生が求められています。

こうした都市近郊の豊かな自然を「伏見ですむ」人・事業者，行政のパートナーシップで保全するとともに，環境学習の場として活用し，「伏見で澄む」自然環境と「伏見で住む」人の高い環境意識を次の世代に継承していきます。



具体的な取組例

- 水辺や里山の生態系保全のための保全活動の推進
- まちに身近な自然環境や生態系を学ぶ環境学習の機会づくり（トレイル（※），ピオトープ（※）の整備など）
- ふかくさ自然環境再生ネットワークによる市民が気軽に散策を楽しむことができる美しい里山の再生
- 桃山丘陵，醍醐山等の緑の保全と自然に親しめる環境づくり

※トレイル・・森林・原野・山地などの踏み分け道，山の小道のことをいいます。

※ピオトープ・・野生の動植物が生態系を保って生息する環境，もしくは公園などに作られた野生の小生物が生存できる環境をいいます。

(2) 自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します

伏見区は、京都のほとんどの水系を集める水と緑の豊かな地域で、城下町、港町、街道筋（宿場町）として歴史の主要舞台に登場してきたまちです。このなかで生まれ、先人たちによって伝えられてきた伏見区特有の歴史的資源を次代に継承するために、「伏見ですむ」人がその魅力を学び、発信し、豊かな地域文化を育む「伏見ですみ」ます。

各主体に期待される役割

- ・ **区民（住民）** は、自らが住む地域の歴史や自然、文化、産業などを学び、育むとともに、次世代に伝えていきます。
- ・ **事業者等** は、区民（住民）の学ぶ活動を支援し、共に地域の魅力を発信して、地域の活性化につなげます。
- ・ **行政** は、区民（住民）の取組を支援するとともに、資源の保全等に努め、一体として伏見の魅力をPRします。

① 私たちは地域の魅力を学び、育み、伝えます。

●歴史、自然資源、地域産業（酒造業等）を活用した伏見のPR

伏見区には悠久の歴史の中で育まれてきた神社仏閣などをはじめとした歴史的資源が数多く点在しており、なかでも醍醐寺は世界文化遺産に登録されています。また、伏見の「澄んだ」水が育んだ地場産業である酒造業が宇治川派流付近に集積しています。

こうした地域の資源を次の世代に継承していくために、「伏見ですむ」人・事業者等がその魅力を学び、子らに伝え、区内外に広くPRしていきます。



具体的な取組例

- 区民が地域の歴史や地域産業等の資源を学ぶ場や機会づくり（大学等と連携した「伏見学」講座、学校教育での地域学習、親子で学ぶ機会づくりなど）
- 住民、企業、団体、大学等教育機関の共同参画による地域の自然・歴史資源・地域産業等を紹介するマップやホームページの作成等情報発信力の強化

② 私たちは水と緑を活かしたまちづくり（「伏水」環境の保全、水辺環境などの活用）をめざします。

●アメニティ（※）を高める水辺環境づくり

かつて伏見は水運の拠点として栄えたまちで、今も河川や水路などの水辺環境は、市街地の景観に潤いを与えています。こうした水辺環境に対して、「伏見ですむ」人が親しみを感じ、訪れる人が快適に感じるようにしていくための取組を「伏見



ですむ」人・事業者等と行政のパートナーシップ（協働）により進めます。

具体的な取組例

- 地域ぐるみの河川の清掃活動の推進
- 水辺の散策路整備，ルート設定（東高瀬川，鴨川，桂川，疏水など）
- 桜や菜の花など花木類の植栽による名所づくり
- まちに身近な自然環境や生態系を学ぶ環境学習の機会づくり（トレイル，ピオトープの整備など）（再掲）

※アメニティ・心地よさ，快適さを感じさせるものや環境をいいます。

●まちなかの緑化など緑豊かな環境づくり

桃山丘陵や稻荷山周辺，醍醐寺周辺の丘陵の緑は，市街地に近接するように位置しています。こうしたまちに身近な自然を保全しつつ，それらと連続した緑豊かな市街地を形成していくために，「伏見ですむ」一人ひとりが，庭先や玄関口に花や緑を飾るなど，気軽に取り組める緑化活動を行い，緑豊かなまちとして「伏見ですむ」魅力を高めます。



具体的な取組例

- 水と緑のネットワークづくり（「緑の核」としてらくなん進都及び伏見市街地の緑を整備）
- 緑化イベント・講習会の開催
- 緑化活動の推進（緑のボランティアリーダーの育成，緑化助成など）

③ 私たちは地域の歴史を活かしたまちづくりをめざします。

●地域の歴史を活かしたまちづくりの推進

伏見区が有する神社仏閣等の史跡，伝統的な祭りなど有形無形の歴史的遺産を知り，次の世代に継承するとともに，観光や文化的活動の面から地域固有の資源として活用を図り，「伏見ですむ」まちの魅力を高めます。



具体的な取組例

- 地域の歴史的資源の掘り起こしとその情報発信
- 地域の文化活動に関する団体間の連携や情報発信の強化
- 伏見桃山城や淀城跡の有効活用
- 地下鉄や醍醐コミュニティバスなどの公共交通機関を利用した醍醐地域の観光振興を進めるためのマップづくり

●歴史的なたたずまいを残す町並みの保全・再生

伏見区には城下町や港町，街道筋，門前町，酒蔵の町並みなど，「伏見ですむ」人の営みや生業と共に育まれてきた歴史的なたたずまいを残す個性的な町並みが残されています。こうした地域の個性豊かな町並みを知り，保全に努め，その魅力に磨きをかけることにより，「伏見ですむ」人が誇りに思うまちづくりをめざします。



具体的な取組例

- 魅力的なたたずまいを残す町並みの紹介等情報発信
- 旧街道（本町通，千本通など）や醍醐寺周辺などの歴史的なたたずまいの保全・再生と活用の促進
- 歴史的建造物の保全

(3) 伏見力を活かし、「新しい京都」のまちづくりを牽引します

伏見区は、豊かな水に恵まれ、交通の要衝であるなどの強みがあり、酒造業や農業、先端産業をはじめ多種多様な産業活動が展開されています。これらの地域の強み「伏見力」を活かし、地域に密着した産業を更に元気にするとともに、京都の活力を牽引する産業を育てるまち「伏見ですみ」です。

各主体に期待される役割

- ・ **区民（住民）** は、地域の生産物を積極的に購入し、身近な商店街等で買い物するなど、地域の産業を応援します。
- ・ **事業者等** は、地域との共存共栄を図るとともに、活力と個性のあるまちづくりに貢献します。
- ・ **行政** は、区民（住民）に対し、地域の産業や生産物をPRするとともに、地域と密着し、伏見力を活かした事業活動を支援します。また、区民（住民）や事業者等とともに、観光客の受け入れ環境を整えます。

① 私たちは地場産業、商店街、観光が連携した地域密着型の産業を応援します。

●地域に密着した商業・商店街の振興

「伏見ですむ」人の買い物など、日常生活が地域内ですみ（済み）、働く所と住む所が近くにある、活気のある地域づくりの核として、気軽に立ち寄れる活気ある商店街づくりをめざします。また、地域で育まれてきた地場産業や観光と商店街の連携により、更なるにぎわいと華やぎを感じさせるまちづくりをめざします。



具体的な取組例

- 酒造業など地場産業や地元農家との連携による、地域の特徴ある商業活性化
- 商業（産業）と観光の連携によるにぎわいづくり
- 大学との連携やまちづくりの観点からの商店街振興

② 私たちは地産地消のまちづくりをめざします。

●身近な都市型農業の振興

伏見区を京都市民の安心安全な食を支える地域としてPRします。そして、それらの農産物を地域で購入・消費できる仕組みづくりや、都市の貴重な緑を形成し、食育の場ともなる農地の保全・活用をめざし、「伏見ですむ」魅力の向上を図ります。

具体的な取組例

- 伏見産農産物の生産、消費の拡大（PR強化など）
- 朝市や直売所での地元産農産物の販売
- 久我・久我の杜・羽東師地域における都市的生活と農業の共生（地産地消、食育の推進、農業体験農園の開設など）
- 深草地域の竹林（たけのこ畑）の再生整備と竹の有効活用
- 巨椋池干拓地の農業（農産物）のPR



③ 私たちは地域とのつながりを大切にした産業振興をめざします。

●地域との共存共栄や雇用の創出を大切にした内発型の産業振興

らくなん進都（高度集積地区）（※）へ誘致される企業等と区内ものづくり企業や地場産業（酒造業等）との交流を支援し、新たな価値を創造するまちづくりを進めます。また、企業の立地・操業にあたっては、雇用の創出や住環境への配慮など「伏見ですむ」人との良好な関係の構築をめざします。



具体的な取組例

- らくなん進都におけるバイオ産業をはじめとした幅広い産業の誘致
- 住居系市街地と産業集積地が互いに安全に共存できるまちづくり（都市計画手法の活用や街路樹等の充実・民有地の緑化など）
- 酒造業など地場産業の振興（世界市場を視野に入れた「Fushimi's Sake」のPRなど）

※らくなん進都（高度集積地区）・・・新しい京都を発信するものづくり拠点としてまちづくりを進めている地域。油小路通を中心に概ね十条通、宇治川、東高瀬川、国道1号に囲まれた約607ha。

④ 私たちは伏見の豊富な観光資源のネットワーク化を進め、多様な魅力のある観光をめざします。

●観光（地域）資源のネットワーク化と総合的な活用による観光振興

伏見の自然環境や豊富な歴史的資源のPRに努めるとともに、地場産業や商店街、地域の農業なども含めた地域資源のネットワーク化とその一元的な情報発信により、歩いて楽しむ周遊型、滞在型の「伏見ですむ（済む）」観光を促進します。



具体的な取組例

- 観光情報の共有化と発信力の強化（住民、企業、団体、大学等教育機関の共同参画によるマップやホームページの作成等）

- 地域の魅力資源、施設のPRの充実（周辺都市や旅行会社、交通事業者等と連携したプロモーションの実施、ロケ撮影の誘致等）
- 伏見の自然や歴史資源を体感できる観光ウォーキングコースの紹介とウォーキングイベントの開催
- 地下鉄や醍醐コミュニティバスなどの公共交通機関を利用した醍醐地域の観光振興を進めるためのマップづくり（再掲）
- 京都南部の広域観光の推進

●「学び」による伏見の魅力の再発見・発信

「伏見ですむ」人の「学び」を活かしたおもてなし力の向上を図ります。「伏見ですむ」人が、伏見の歴史や多様で魅力的な地域資源などを楽しく学び、「伏見ですむ」誇りとおもてなしの心を養うとともに、地域のことをよく知る「地域の語り部」や観光ボランティアガイドなどの人材を活かした質の高い体感型の観光を進めます。



具体的な取組例

- 大学と連携した「伏見学」講座の実施（再掲）
- 「地域の語り部」の発掘とネットワーク化
- 「地域の語り部」を活かしたガイドツアーの推進、親子を対象にした昔語り

●観光客の受け入れ環境の充実

伏見を訪れるすべての人が、安全・快適に観光できる環境を整えるとともに、歩いて楽しいまちになるよう、公共交通機関の利便性向上、パークアンドライド（※）の拡大などを図ります。



具体的な取組例

- 駅等での観光案内表示の充実と観光コースにおけるきめ細かな案内誘導等の整備
- 公共交通の利便性向上（観光客のための「共通乗車券」の発行等）
- 駅や郊外の駐車場でマイカーから乗り換える多様な移動手段の確保

※パークアンドライド（再掲）・・・クルマの市街地への乗り入れを抑制し、都市の慢性的な交通渋滞を緩和することを目的として、自宅から乗ってきたクルマを、途中で駅周辺の駐車場に停めてもらい、バスや電車などの公共交通機関への乗り継ぎを促す制度をいいます。

(4) 地域のコミュニティが人を育み、

すこやかな暮らしを支えるまちをめざします

伏見区は、歴史的な経過や地理的条件の異なる個性豊かな地域で構成され、それぞれ特色のあるまちづくりが展開されています。一方、NPOなどの地縁を越えた活動も活発です。これらの地域における多様な「縁」が「伏見ですむ」人を育て、すこやかな暮らしのために互いに支え合うことができるまち「伏見ですみ」ます。

各主体に期待される役割

- ・ **区民（住民）** は、地域の様々な人と関わりを持ち、相互理解を深め、互いに助け合える仕組みづくりに取り組みます。
- ・ **事業者等** は、区民（住民）の地域活動を支援するとともに、地域サービスの担い手としての役割を果たします。
- ・ **行政** は、区民（住民）の（公益）活動相互の交流や連携によりお互いの活動が更に活性化することをめざし、交流の場づくり、連携の機会づくりに努めます。

① 私たちは多様な個性を尊重し合う人権文化が根付く共生型社会の実現をめざします

●互いを尊重し合う人権文化の醸成

多様な個性を認め合い、お互いを尊重し合う人権文化を育み、様々な人々が共に暮らし、社会参加できる共生型社会の構築をめざします。

具体的な取組例

- 人権を考える体験型、参加型の学習機会の提供
- 自主的な人権問題解決のための取組への支援



●多文化共生社会の実現に向けた交流の促進

伏見区は外国籍市民や外国からの帰国者の方も多く居住されていますが、言葉の壁や生活習慣の違いにより、近隣住民の方々との交流や相互理解が進まず、地域コミュニティでの共生が進まないケースもあります。そこで、異文化に対する理解を深めるための取組を進め、伏見区から、多文化共生社会の実現を推進します。

具体的な取組例

- 外国語表記のガイドの配布
- 外国籍市民や留学生等の言語能力を活かした人材活用
- 中国帰国者（※）の地域活動への参画支援
- 多文化交流の場づくり、ネットワークづくり



※中国帰国者・・・1945年（昭和20年）に第2次世界大戦が終結した後も帰国できず、中国に残された日本人で、日中国交正常化後に帰国した者のことをいいます。

●地域コミュニティを支える交流の場づくりと新たな担い手育成

新たに形成された住宅地や新築マンションなどにおけるコミュニティ形成上の問題や地域活動に十分参加できない家庭の存在，地域活動の担い手の高齢化などを踏まえて、「伏見ですむ」人が積極的に参加できる交流の場づくりを進めるとともに，地域活動を先導する担い手を育成することをめざします。



具体的な取組例

- 地域活動や自治会等団体が主催するイベント等に関する情報発信力の強化
- 全員参加型の自治活動の推進（サークル活動や各種教室など気軽に参加できる活動づくり，老若男女が集まるイベント等の開催等）
- 地域住民が気軽に利用できる交流の場づくり
- 地域活動のリーダーとなる担い手の育成
- 地域団体間の連携の強化

●多世代交流のまちづくりの推進

「伏見ですむ」大人や子ども，高齢者や障害のある人など，様々な人々が他人を思いやり，暮らしやすい地域とするために，気軽に交流できるまちづくりを進めます。とりわけ団地等においては，周辺地域も含めた世代間交流を図るとともに，地域の子どもが「伏見ですみ」続けられる環境づくりを進めます。



具体的な取組例

- 子ども見守り活動の継続と挨拶運動の実施
- 地藏盆など地域の催事を活用した世代を超えた交流が可能なイベントの開催
- 地域の伝統文化等を大人から子どもに伝え，子どもの地域への愛着を育てるためのイベントの開催（地域の伝統文化を子どもたちが披露するまつり等の開催）

② 私たちは市民活動を促進する環境を整えていきます。

●市民活動団体の連携促進と活動支援

「伏見ですむ」人の公的（公益）活動への参加意欲を実現につなげ，継続・発展させるための支援の仕組みづくりを行います。

また，自治会や社会福祉協議会，自主防災会，体育振興会等の各種団体や，地域の大学やNPOなど様々な団体の交流・連携を促進するとともに，知識

伏見区総合庁舎区民交流スペースの写真（予定）

やノウハウを持つ大学、NPO等とそれを必要とする自治会等を橋渡しする環境づくりを行います。

具体的な取組例

- 市民活動や地域活動の情報共有、交流、連携の場と機会づくり
- 市民活動に関する出張講座の開催や区役所への臨時相談窓口の設置

●大学と地域との連携促進

大学等の教育における地域での体験型学習のニーズ（需要）が高まる中、大学の知や学生の力を地域の活性化や課題解決につなげる取組が進みつつあります。これらを更に促進するため、大学等の活動と地域をつなぐ情報手段の提供や連携拠点の整備、コーディネーター（※）の育成などを行います。

地域住民と大学生のが一緒に活動している写真（予定）

具体的な取組例

- 大学等と市民活動団体や地域団体の各々のニーズをつなぐための情報基盤づくり
- 大学と区役所の包括的連携
- 体験型学習の地域側の受け入れ体制の充実（コーディネーターの育成など）

※コーディネーター・・・様々なネットワークの要となり、参加と協働を企画、進行する役割を担う人を行います。

③ 私たちは地域の福祉力、教育力を高めていきます。

●高齢者や障害のある人を地域で支える仕組みづくり

高齢者や障害のある人が、住みなれた地域で安心して生活できるようにするため、近隣住民や自治会、関係団体や行政が連携し、「伏見ですむ」者同士が気軽にお互いを支え合うことができる環境づくりを進め、地域の福祉力を高めます。

具体的な取組例

- 災害時や緊急時の避難支援を行うための情報整備・体制の充実（要援護者名簿の活用など）
- 高齢者が身近な地域で活動できる場づくりや、会話や食事を楽しめるサロンの開設
- 福祉・医療施設と地域における福祉の担い手（自治会、学区社協、民生児童委員、老人福祉員、地域包括支援センター等）のネットワークの形成
- 地域で高齢者を見守る仕組みづくり
- 元気な高齢者の知識や経験を活かした社会参加活動の推進

●子育て環境の充実，子どもを地域で育む仕組みづくり

家庭と学校等教育機関，保育施設，地域が協力して，安心して子どもを生み育てられる環境を整えます。

「伏見ですむ」子育ての仲間同士や地域の子育ての先輩との交流の場をつくるなど，専門的知識，経験と能力を活かしながら相互に支え合う関係を育てていきます。また，子どもを預けて働ける環境づくりや子育てに悩みを抱える家庭を支えるための子育て支援のネットワークづくりを行います。



具体的な取組例

- 子育てグループと地域の子育ての先輩や学生，専門家たちとの交流の場づくり
- 区役所等への子育て支援コーナーの設置
- 地域の子育て支援拠点での相談・交流・情報発信
- 放課後まなび教室等に地域の人が積極的にボランティアとして参加（土曜学習など）
- 子育てや子どもの安全に関わる公的機関・民間機関等で構成する子どもネットワーク連絡会議の強化
- 保育所や学童クラブの待機児童の解消
- お祭りや地蔵盆，多世代交流イベントなど子どもと地域がつながる取組の推進

●地域ぐるみの健康増進の推進

「伏見ですむ」誰もが健康でいきいきと暮らせるようにするため，地域で住民が相互に支え合って健康づくりに取り組める環境をつくります。

具体的な取組例

- 保健センターと地域の健康づくりサポーター等の連携による地域単位での健康づくり教室の実施
- 食育指導員等と地域との連携による食を通じた健康づくり



●食文化の継承のための活動促進

地域で産出される農産物などの地場産品や旬の野菜を知り，活用に努めます。また，地域の特色ある食文化や季節ごとの食習慣の継承を図るため，それらに関する技や知恵等の啓発・普及を進めます。

具体的な取組例

- 食育体験（親子で料理を楽しむ・地域の食文化を学ぶ・食の安全を学ぶ等）講座の実施
- 旬のものを食べる食生活の普及



④ 私たちはすべての人が心豊かにいきいきと暮らせるまちをめざします。

●小学校等を核とした生涯学習や文化交流の推進

「伏見ですむ」人すべてが、こころ豊かな暮らしや生きがいのある暮らしができるように、地域のニーズに応じた学習の機会の充実を図ります。また、地域の小学校等の施設を活動の場として活用するなど、身近な場所での活動の場づくりを進めます。



具体的な取組例

- 小学校等の施設を活用したサロンや教室等の開催（学校ふれあいサロン事業など）
- 市内最多の図書館による、幅広い年齢層の様々なニーズに応える資料提供
- 地域の文化サークル等の活動促進

●「学び」による伏見の魅力の再発見・発信（再掲）

「伏見ですむ」人の「学び」を活かしたおもてなしの向上を図ります。「伏見ですむ」人が、伏見の歴史や多様で魅力的な地域資源などを楽しく学び、「伏見ですむ」誇りとおもてなしの心を養うとともに、地域のことをよく知る「地域の語り部」や観光ボランティアガイドなどの人材を活かした質の高い体感型の観光を進めます。



具体的な取組例

- 大学と連携した「伏見学」講座の実施（再掲）
- 「地域の語り部」の発掘とネットワーク化
- 「地域の語り部」を活かしたガイドツアーの推進、親子を対象にした昔語り

●区民がスポーツやレクリエーションを楽しむ環境づくり

「伏見ですむ」人すべてが、健康でいきいきとした暮らしができるように、老若男女が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめる環境づくりを進めます。また、伏見区を拠点の1つとして活動するプロスポーツクラブ（京都ハンナリーズ等）との連携により、スポーツ教室の実施など、スポーツ振興の取組や人材育成等を進めます。



具体的な取組例

- 学校の体育施設の開放など既存施設の利用促進
- 地域における市民スポーツの振興

(5) 安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします

伏見区は幹線道路や鉄道が南北を貫き、京都と大阪をつなぐ交通の要衝であるものの、区内の交通ネットワークは十分とは言えず、生活道路の安全対策も求められています。「伏見ですむ」人の営みと暮らしを支える交通や道路が整い、安全で快適に住み続けることができる、人にやさしい便利なまち「伏見ですみ」ます。

各主体に期待される役割

- ・ **区民（住民）**は、子どもや高齢者の見守りや防犯防災の取組など自らの地域を自らで守る取組を実践します。
- ・ **事業者等**は、区民（住民）と共に地域の安心安全に取り組むとともに、安心安全に配慮した事業活動を行います。
- ・ **行政**は、区民（住民）や事業者等の取組を支援するとともに、安全に関する意識の啓発や、安心安全な生活を保障する都市基盤の整備を行います。

① 私たちは安心安全に暮らせる環境づくりを進めていきます。

●地域ぐるみの交通安全、防犯対策の推進

「伏見ですむ」誰もが安心して歩けるまちづくりを進めるとともに、交通安全に係わる意識やマナーの向上を図ります。また、防犯に対する意識の向上を図りつつ、安心安全マップづくりや安心安全ネットワークの活動などを通して、地域住民の連帯を深め、「伏見ですむ」人、事業者、行政等が一体となって治安を守り、安心して暮らせるまちづくりを進めます。



具体的な取組例

- 交通安全教室の実施などによる交通安全に係わる意識啓発
- 駐車・駐輪のマナー向上のための意識啓発
- 地域の安心安全ネットワークの充実

●防災対策の推進

災害に対して「伏見ですむ」人々がお互いに助け合うことを基本とした体制づくりを進めるとともに、治水機能の強化や建築物の耐震化による防災機能の強化を図ります。また、災害時の備えとして、避難生活や復旧作業を円滑に進めるため、平時における準備を進めるほか、災害時における「伏見ですむ」人、事業者、行政等との連携による協力体制づくりを進めます。



特に、河川の防災対策にあたっては、川に親しむことを通じ、水害に対する理解を深め、「伏見ですむ」人の防災意識を高めます。

具体的な取組例

- 地域ごとの防災マップの作成・周知
- 防災訓練等への参加促進や救命などに係わる講習会の開催
- 土石流や急傾斜地域の調査の推進
- 災害時の避難経路，避難場所の周知
- 河川や水路の防災対策の推進
- 防災思想の普及・啓発

●人にやさしいみち・施設の整備

歩行者が安全で快適に歩ける道とするために，生活道路に流入する通過交通の抑制を図るための幹線道路の整備や交通規制や歩車分離などとともに，歩行者の安全な通行を妨げる放置自転車の一掃に向けた取組を推進します。公共施設や公共交通施設についても安全性を高めるための施設環境の向上をめざします。



具体的な取組例

- 啓発や撤去による自転車利用マナーの向上
- 駅周辺等における駐輪場の設置・改善
- 駅等を拠点とした自転車の共同利用の推進
- 駅等におけるユニバーサルデザイン（※）に基づく施設整備
- 歩車分離等による道路の歩行者空間の確保
- 花木の植樹や花壇の設置等による美しく快適なみちづくり
- 都市計画道路などの幹線道路の整備推進

※ユニバーサルデザイン・・・製品や施設等を，すべての人が利用しやすいデザインにすることをめざす考え方をいいます。

●安心安全に暮らせる住環境の整備

小規模住宅開発が急速に進行し，都市基盤整備が追い付いていない地域やその周辺地域等について，安心・安全な暮らしを確保するため，道路などの都市基盤整備や，計画的な土地利用の誘導を図ります。

具体的な取組例

- 土地区画整理事業の推進等による計画的な土地利用の誘導と道路などの公共施設の整備の推進
- 建築協定，地区計画制度の活用による計画的なまちづくりの推進
- 大岩街道周辺地域の良好な環境づくりの推進



② 私たちは人にやさしく環境への負荷を減らす交通システムや移動方法の構築をめざします。

●東西方向の交通インフラの整備

区内および隣接市町との連携の強化により、移動の円滑化や利便性の向上を図ります。また、都市計画道路等の早期整備に加え、公共交通機関の連絡強化をめざします。

具体的な取組例

- 都市計画道路などの幹線道路の整備推進（再掲）
- バス等の公共交通機関の路線拡充と連絡強化の推進

●交通結節の強化と公共交通不便地域における対応策に関する検討（再掲）

鉄道駅等のターミナル機能の強化と公共交通機関のネットワーク化を図り、伏見区内の移動が公共交通の利用で「済む」ことと、区内外への交通アクセスを向上させること、更には区民の相互交流と観光資源のネットワーク化をめざします。また、公共交通の不便な地域において、「伏見ですむ人」・事業者等と行政が連携し、地域の足を守り、確保していくための手段を検討し、歳を重ねても住み続けられるまちをめざします。

具体的な取組例

- 京阪本線淀駅のターミナル機能の強化
- 京都駅とらくなん進都を直結する高規格バスの導入
- 公共交通機関相互の連絡強化
- 公共交通不便地域における対応策の検討



※ターミナル機能（再掲）・・・駅等を拠点とした多様な交通手段の乗り換え、乗り継ぎ機能をいいます。

3-2 地域別の取組方針

(1) 旧伏見市・竹田・桃山地域



まちづくりの取組目標<合言葉>

“みんなが見たい、聞きたい、話したい” 歴史がいきづく元気なまち

豊かな緑に抱かれた豊太閤の城下町。京の都を北に望み、清冽で豊かな湧水と水運を背景に、政治・経済の中心として繁栄を極めた地。酒蔵と古い街並みをとどめる地域を一層活性化させるために、商店街等をはじめとする「伏見の町衆」の力を結集していきます。

【取組方針】

●住民力の結集と誰もが参画できる機会づくりによる活気あるまちづくり

- ・住民同士が交流できる場所づくり、体制づくり
(学校と地域の連携強化)
- ・若い世代が担い手として参加しやすい機会づくり
- ・歴史まちづくりを進める推進母体づくり



●暮らしの中にいきづく身近な自然や歴史・文化など、地域の魅力資源を活かしたまちづくり

- ・歴史資源・地域の魅力資源の観光ネットワーク
(地域の魅力資源・観光スポットなどのマップ、魅力資源や施設等の案内、観光コースづくり等)
- ・魅力的な水辺の環境づくり
(濠川、宇治川派流沿いの魅力向上、東高瀬川の小径整備、歩行環境の向上)
- ・地域の歴史や観光資源を学び、伝える
(観光ボランティアガイドの育成など)

●多様な世代や観光客に地域情報等をアピールし交流するまちづくり

- ・地域住民や事業者など、異世代・異業種間の交流ができる場づくり
(住民、事業者、大学生等も交えた情報交換・交流の場、地域プラットフォーム)
- ・若い世代(観光客)への情報発信
(地域の魅力紹介ツールづくり等・企画、情報発信)

(再掲) 同地域に関連する主な「具体的な取組例」

- ・桃山丘陵の緑の保全と自然に親しめる環境づくり P.15の再掲
- ・水辺の散策路整備、ルート設定(東高瀬川など) P.17の再掲
- ・伏見桃山城の有効活用 P.17の再掲

ちょっと注目!

円卓会議ではこんなアイデアも!!

- ・温泉発掘プロジェクト
- ・伏見の名物づくり

(2) 下鳥羽・横大路・納所・淀地域



まちづくりの取組目標<合言葉>

私たちがつくる 美しい水と歴史が輝く みんなが集うまち

古から京都と大阪を結ぶ交通の要衝であったこの地域は、今も広域交通網の要衝であり、また、循環型社会構築の要を担う地域、南部創造のまちづくりの牽引役として、重要な役割を果たし続けています。横大路地域を中心とする伏見ルネッサンスプランの取組や淀城跡を中心とするまちづくりの取組など、急速に高まりつつある地域住民と事業者、行政の協働の機運を更に推し進め、確かな未来を築いていきます。

【取組方針】

●地域と人のつながり（ふれあい・見守り）を大切にしたい安心・安全なまちづくり

- ・地域の人たちが元気になるふれあい活動（イベント等）
（西部ふれあいプラザを更に魅力的に、みんなが集まれる活動拠点（淀競馬場等の活用）づくり）
- ・ご近所づきあいや高齢者や子どもの見守り
- ・地域の安心・安全マップづくり
（地域住民の危機管理意識の向上等、防災・水防等マップづくり）

●地域の歴史資源や地域産物の豊かさをアピールし、次世代につなげるまちづくり

- ・地域の歴史を知り、学び、地域の魅力や愛着を育てる
（地域の歴史資源や旧街道筋を活かした回遊ルート設定、魅力資源マップづくり）
- ・地域の農産物（地場野菜）の活用
（近隣農地で栽培された地場野菜（淀大根、九条ねぎ）や加工品等の販売、朝市等の開催）
- ・地域のまちづくり機運を盛り上げるイベントの開催と発展
（横大路地域のまちづくりイベント「桂川草津みなと鯉海道祭り」など）



●人に身近な水辺環境の豊かさを活かした憩いの場づくり

- ・堤防や河川敷、人に身近な水辺の美化、清掃活動
- ・水路や川辺の環境整備による散策と憩いの場づくり

（再掲）同地域に関連する主な「具体的な取組例」

- ・伏見ルネッサンスプランに基づく取組の推進 [P.14の再掲](#)
- ・淀城跡の有効活用 [P.17の再掲](#)
- ・旧街道（千本通など）の歴史的なたたずまいの保全・再生と活用の促進 [P.18の再掲](#)
- ・土地区画整理事業の推進等による計画的な土地利用の誘導 [P.28の再掲](#)
- ・京阪本線淀駅のターミナル機能の強化 [P.15, 29の再掲](#)
- ・交通不便地域におけるコミュニティ交通の検討 [P.15, 29の再掲](#)

(3) 久我・久我の杜・羽束師地域



まちづくりの取組目標<合言葉>

多世代が住む 緑豊かな誰もが好きになれるまち

かつて緑豊かな田園地帯だったこの地域も、近年の急激な宅地化によって大きく変貌しつつあります。「久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会」の取組を中心に、地域住民と行政の協働で誰もが何世代にもわたって住み続けたいまちづくりをめざします。

【取組方針】

●人と人のつながり（交流・見守り）を大切にしたまちづくり

- ・住民同士が交流し憩える場づくり
（交流できる場所と機会づくり）
- ・地域全体で子どもたちの見守り
（見守り隊活動等の継続，若い世代の参加促進）
- ・地域と学校の連携を密にしたまちづくり
（学校運営協議会等の取組の進展）



●住民の力が発揮され、安心・安全で住み続けられるまちづくり

- ・まちづくりビジョンの実践
（まちづくりビジョンに位置づけられた取組等の実践）
- ・安心・安全な暮らしができるまちづくりの促進
（地区計画，景観まちづくりのための協定づくりなど）
- ・住民の力が発揮できる，力を出し合える場や仕組みづくり
（久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会の活動等の取組促進）

●まちに身近な自然や田園，歴史・文化を大切にし，次世代につなげるまちづくり

- ・地域の自然，農業を活かした体験型学習の取組
（地域の農家との連携による農作業体験，環境美化活動～身近な自然学習）
- ・美しい水辺環境や田園風景を守るための美化活動等の取組
（河川や水路，農地周辺の美化・清掃活動）

（再掲）同地域に関連する主な「具体的な取組例」

- ・都市的生活と農業の共生（地産地消，食育の推進，農業体験農園の開設など） [P.20の再掲](#)
- ・都市計画道路などの幹線道路の整備推進 [P.28の再掲](#)
- ・土地区画整理事業の推進等による計画的な土地利用の誘導と道路などの公共施設の整備推進 [P.28の再掲](#)
- ・交通不便地域におけるコミュニティ交通の検討 [P.15, 29の再掲](#)

ちょっと注目！

円卓会議ではこんなアイデアも！！

- ・先端産業が集積する「久我バレー」の実現
- ・学問のまち

(4) 向島地域



まちづくりの取組目標〈合言葉〉

“温もりとつながり”で支え合う 安心と福祉のまち

巨椋池の干拓と共に拓かれてきたかつての新興地域も成熟の時を迎えています。地域住民主催のふれあいイベントの取組をはじめ、人々の「温もりとつながり」をキーワードに、新たな時代を築いていきます。

【取組方針】

●高齢者や障害のある人が元気に安心して暮らせるまちづくり

- ・障害のある人や高齢者などに関われる、情報共有ができる場づくり
(コミュニケーションの場所・交流できる場所と機会づくり)
- ・高齢者(独居者)や要介護者への声かけ、見守り等取組
(居住者等の情報共有や担い手づくり等体制づくり)
- ・身近な相談ができる場づくりや情報共有ができる体制づくり
(相談できる担い手など)

●豊かな暮らしを支える活発な多世代の交流があるまちづくり

- ・多世代(親子、親同士、子供同士)が交流できる場づくり
(関連イベント等の連携)
- ・高齢者が元気になる活動の場づくりや健康づくりの場づくり
(趣味、文芸講座等の開催、イベント等への参加による活躍の場づくり)

●まちに身近な自然や地域の歴史資源を大切に、地域産材等を活かしたまちづくり

- ・地域の農産物(地場野菜)の販売等、定期「市」の開催
(巨椋池や近隣農地で栽培された地場野菜や加工品等の朝市)
- ・自然等を身近に感じさせる魅力的な公園づくり
(近所の公園の維持管理、季節感の感じられる公園づくり)
- ・向島の古い町並み等歴史的な価値のアピール



(再掲) 同地域に関連する主な「具体的な取組例」

- ・巨椋池干拓地の農業(農産物)のPR [P.20の再掲](#)
- ・中国帰国者の地域活動への参画支援 [P.22の再掲](#)

(5) 深草地域



まちづくりの取組目標<合言葉>

自然と歴史がまちを包み、まちが「ひと」を育む成熟のまち

古代からひらけ、悠久の歴史を有する深草地域。東部には、稲荷山など竹林を中心とする緑豊かな丘陵が広がり、中央部には疏水が南北を貫き、その周辺部には、十六師団が駐留した古くからのまちなどが形成され、そこには大学、高校などの教育機関や医療施設が立地しています。

地域住民や各種団体、教育機関等と一体となって、自然を守り活かす取組を更に押し進めるとともに、にぎわいのあるまちづくりを着実に進めていきます。

【取組方針】

●「地域」と「ひと」のつながり（交流・見守り）が実感できる安心安全なまちづくり

- ・安全安心のまちづくり
（高齢者の実態把握、空家問題、通学路・散策路・駅までの道路に係わる公共交通問題等の取組）
- ・地域活動の横のつながりをつくる交流の場づくり
（地縁組織や関係団体等による気軽に交流できる場づくり）
- ・3大学の集積の活用
（地域との交流促進、学生の地域活動への参加など）

●本町通界隈のにぎわいが見えるまちづくり

- ・まちと商店街との共生によるにぎわいづくり
（少子高齢化に対応した住みやすいまちづくりなど）
- ・疏水沿いの水辺環境づくり
（疏水の桜などを活用したにぎわいづくりなど）
- ・歩きやすい本町通の環境づくり
（道路利用マナーの徹底など）



●まちの身近な自然（里山）や歴史など、環境の豊かさを享受できるまちづくり

- ・深草トレイルの充実（稲荷山～大岩山）
- ・みんなで里山づくり（竹林再生、不法投棄対策など）
- ・深草産地場産品の普及（深草産野菜や竹製品のPRなど）
- ・大岩街道周辺地域の良い環境づくりの推進（まちづくり方針の具体化）

（再掲）同地域に関連する主な「具体的な取組例」

- ・ふかくさ自然環境再生ネットワークによる市民が気軽に散策を楽しむことができる美しい里山の再生 [P.15の再掲](#)
- ・旧街道（本町通など）の歴史的なたたずまいの保全・再生と活用の促進 [P.18の再掲](#)
- ・大学との連携やまちづくりの観点からの商店街振興 [P.19の再掲](#)
- ・深草地域の竹林（たけのこ畑）の再生整備と竹の有効活用 [P.20の再掲](#)

（6）醍醐地域

まちづくりの取組目標＜合言葉＞

みんなが参加し、地域で支え合う 希望と期待が満ち溢れるまち

東西に広がる緑豊かな山並み。まちの中央を流れる山科川。古くから京都・奈良・近江をつなぐ道が拓かれ、世界文化遺産の醍醐寺をはじめ古刹・名刹が点在するこの地域は、今は多くの公営公団住宅やマンションが立地するようになりました。

地域の足となる住民が主体となったコミュニティバスの運行、安心安全なまちづくりのたゆまぬ取組など、地域が持つコミュニティの力をより一層高め、自然や文化を大切にしながら、活気溢れるまちづくりを進めます。

【取組方針】

●安心安全な暮らしを地域と人が支え合う 地域コミュニティを大切にしまちづくり

- ・高齢者や若者等あらゆる世代が交流し憩える場づくり
（気軽に交流し、支え合える場所づくり）
- ・地域とPTAとの連携による次世代のまちづくりの担い手づくり
（楽しみながら参加できる活動の場づくり、次の世代への後継者育成）
- ・地域で支える子どもたちの見守り
（見守り隊の増員や活動の継続）

●コミュニティバスを活かして地域の活性化につなげるまちづくり

- ・他地域や地域内の観光施設や資源をコミュニティバスで結ぶ観光ネットワーク化
（醍醐～他地域とのネットワーク、路線ルートの拡充等）
- ・醍醐の歴史的資源を結ぶ散策路等ルートの設定
（醍醐の魅力的な歴史的資源のネットワーク化）
- ・地域の魅力的な資源やバスルート等のマップ作成
（地域の魅力的な資源の紹介、コミュニティバスの利用促進）



●身近な水辺環境を大切にしまちづくり

- ・美しい水辺環境を守るための美化活動等の取組
（山科川の水辺環境美化活動）
- ・河川をきれいにして生物が棲める環境再生
（水をきれいにしてホタルの棲める川にする、野鳥が棲む環境づくりなど）

（再掲）同地域に関連した「具体的な取組例」

- ・醍醐山等の緑の保全と自然に親しめる環境づくり [P.15の再掲](#)
- ・地下鉄や醍醐コミュニティバスなどの公共交通機関を利用した醍醐地域の観光振興を進めるためのマップづくり [P.17, 21の再掲](#)

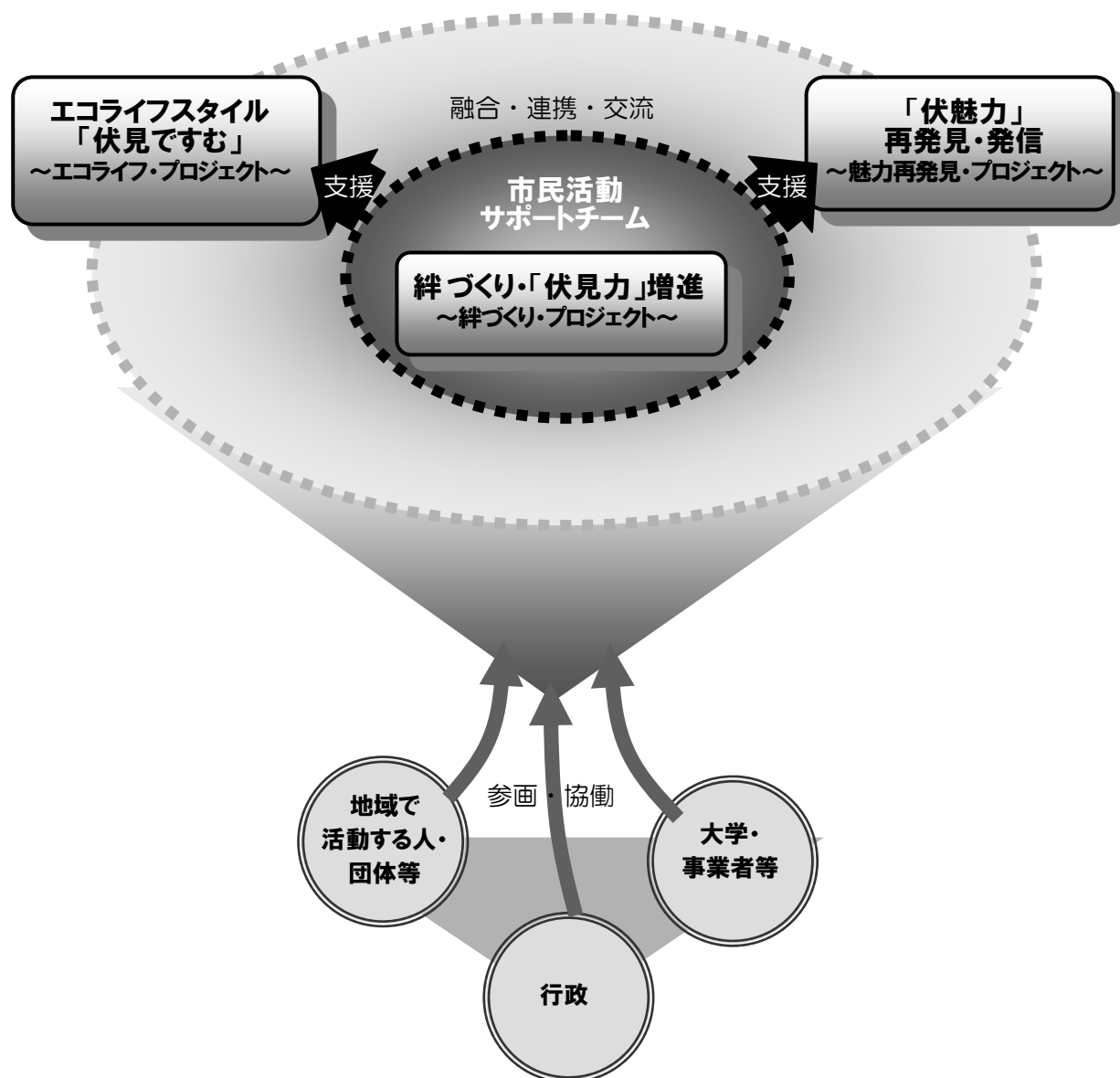
4 重点戦略「融合プロジェクト」

「伏見ですむ」人・事業者と行政が主体となって取り組む

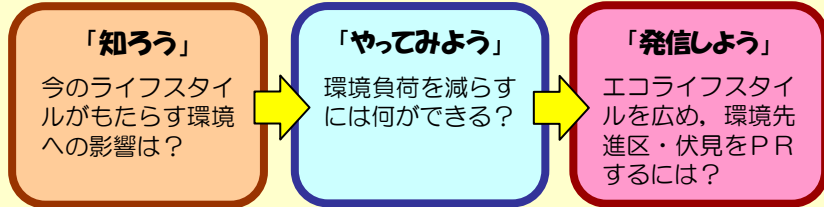
重点戦略「融合プロジェクト」

本計画の推進のため、今後10年間のまちづくりの基軸となり、各分野を融合して幅広い効果が期待できる取組を「融合プロジェクト」と名づけ、重点的に進めます。

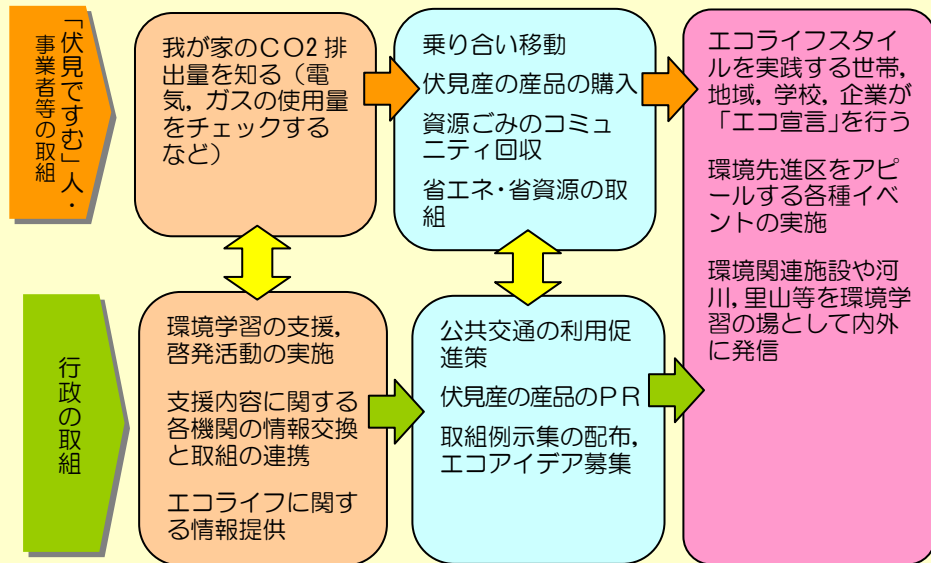
「融合プロジェクト」の推進に当たっては、地域に存在する活動団体の情報をネットワーク化し、活動に必要な情報、資金、ノウハウなどの支援を総合的に提供する「市民活動サポートチーム」を行政、市民活動支援機関、大学、NPO、各種団体等の連携により設置し、伏見ですむ人・事業者等による主体的な取組を支援するとともに、行政による啓発活動や仕組みづくり（様々な活動の母体づくり）を推進します。



○循環型社会の要を担い、豊かな自然環境に恵まれた伏見区ならではの「伏見で“済む”」エコライフスタイルを提唱し、「伏見で“住む”」一人ひとりが日々の暮らしや生業の中で実践していくための取組を進めます。

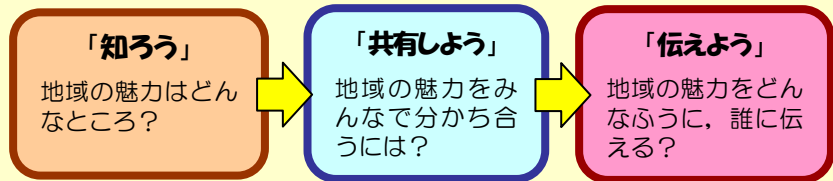


取組イメージ例

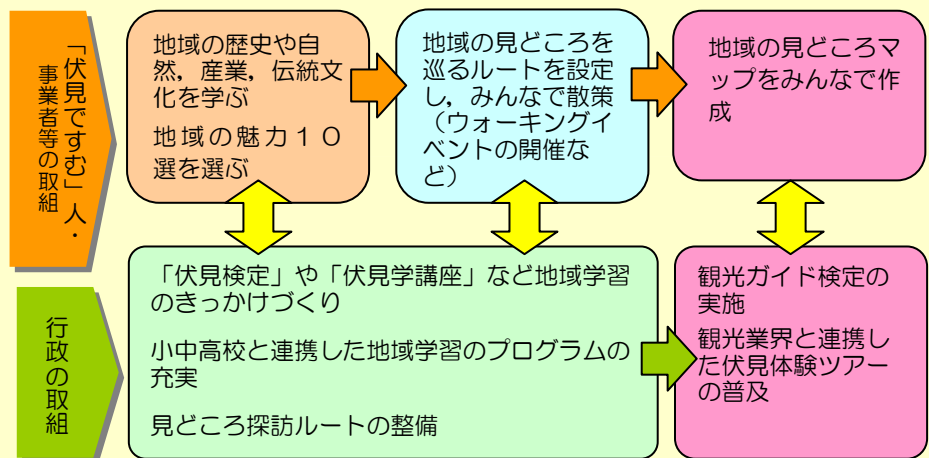


●「伏魅力」再発見・発信 ～魅力再発見・プロジェクト～

○「伏見ですむ」人が地域の魅力や資源を再発見し、それらに磨きをかけることを通して、“おもてなし”の心と「伏見にすむ」誇りを醸成するとともに、伏見の魅力「伏魅力」を内外に発信していきます。



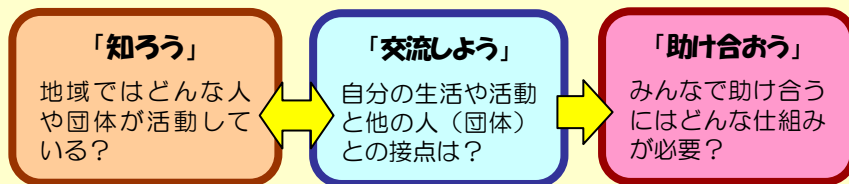
取組イメージ例



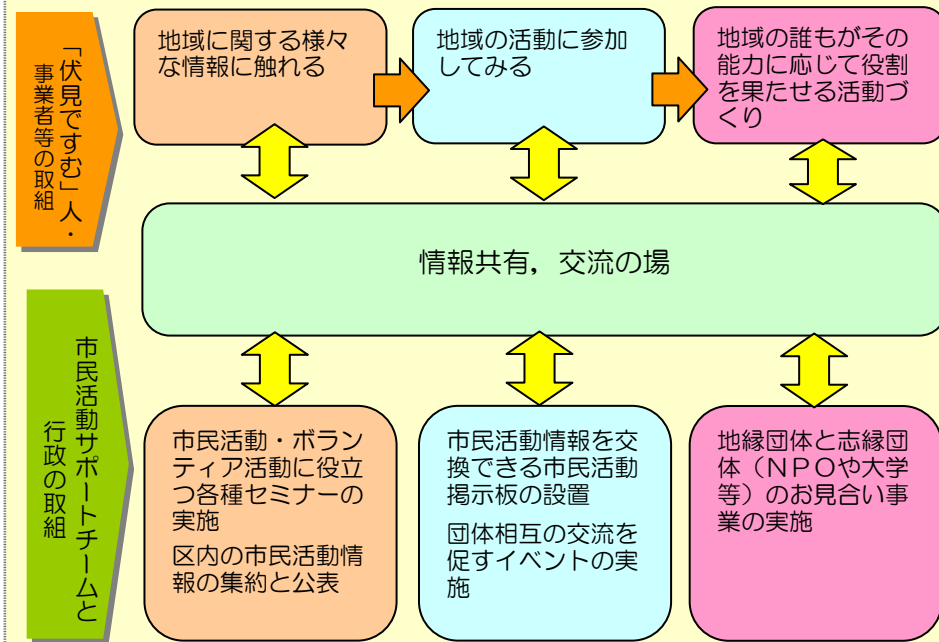
融合プロジェクト

きずな 絆づくり・「伏見力」増進 ～絆づくりプロジェクト～

○地域で活動する人や団体、事業者等の情報共有・交流（マッチング）や活動のサポートを行い、地域の絆と「伏見力（市民力）」を育てます。



取組イメージ例



5 計画の実現に向けて

伏見区基本計画の実現のために、区民・事業者等と行政が「伏見ですむ」ことの想いを共有し、互いに協力し、知恵を出し合い、協働によってまちづくりを進めていきます。

●実施（推進）体制

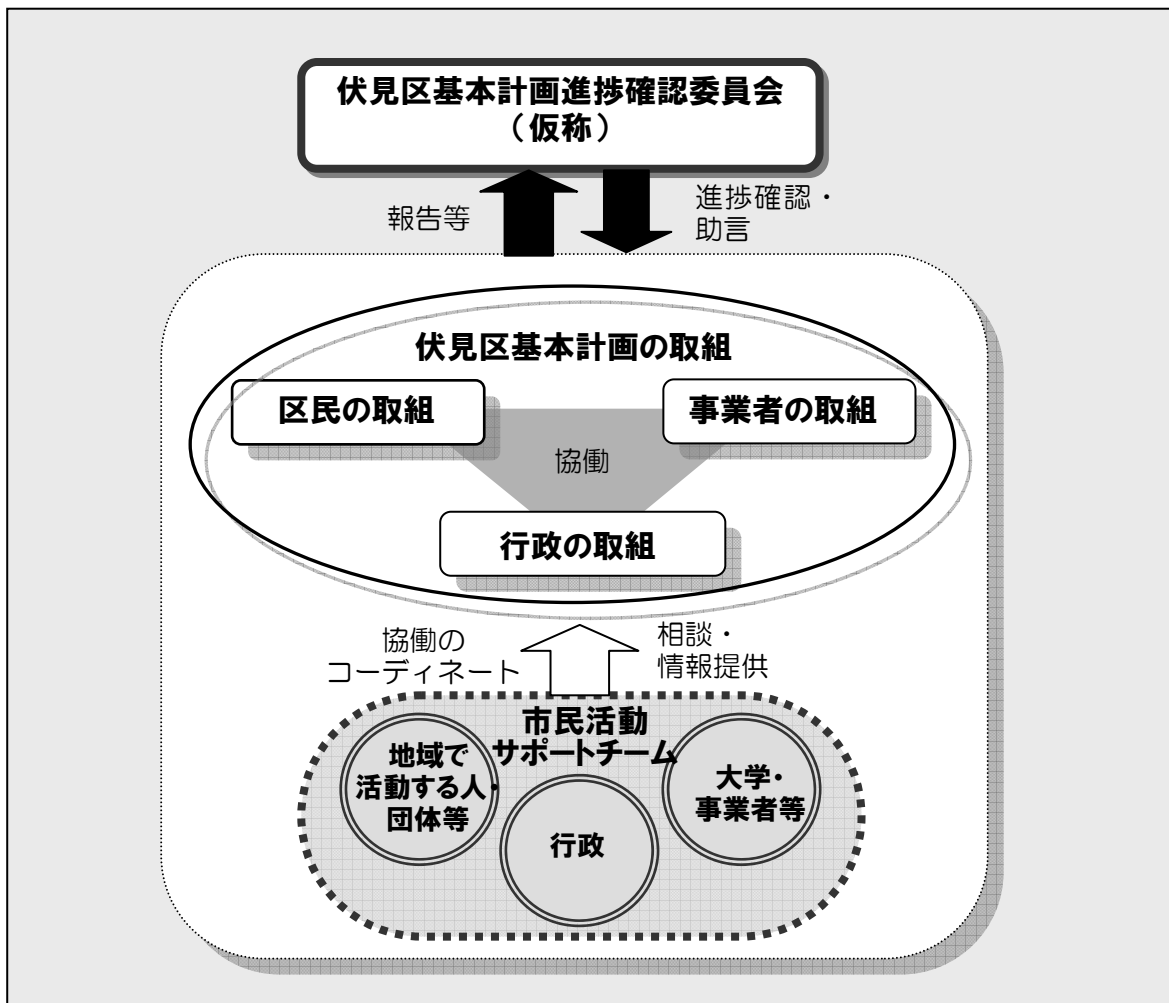
区民、事業者等、行政のそれぞれが計画に書かれた役割を果たすため、主体的に行動し、協働します。また、それらの取組を市民活動サポートチームが支援します。

●進捗の確認体制

計画全体の進捗管理を図るため、伏見区基本計画全体をマネジメントする会議として伏見区基本計画進捗確認委員会（仮称）を設置し、定期的に取り組の進捗状況を確認し、必要に応じて助言を行います。

●取組内容の見直し

取組の進捗が一定見られる時期に、アンケート調査等による区民の実感評価を行い、必要に応じて取組の内容を見直します。



伏見区基本計画の策定経過

	伏見区基本計画策定委員会	区民参加の取組
20年度		◎伏見区住民円卓会議 ・旧伏見市・竹田・桃山地域 第1回(1月21日), 第2回(3月20日) ・向島地域 第1回(2月4日), 第2回(3月4日) ・下鳥羽・横大路・納所・淀地域 第1回(1月27日), 第2回(2月27日) ・久我・久我の杜・羽束師地域 第1回(2月6日), 第2回(3月6日) ・深草地域 第1回(1月28日), 第2回(3月2日) ・醍醐地域 第1回(3月25日)
21年度	●第1回委員会(10月6日) ・前基本計画の総括結果の報告 ・基本計画策定方針について ●第2回委員会(12月1日) ・基本計画の構成・基本方針について ・アンケート実施について ●第3回委員会(3月10日) ・基本計画(素案)について	◎区民アンケート(1月～4月) ◎伏見区住民円卓会議 ・旧伏見市・竹田・桃山地域 第3回(2月3日) ・向島地域 第3回(2月2日) ・下鳥羽・横大路・納所・淀地域 第3回(1月27日) ・久我・久我の杜・羽束師地域 第3回(2月2日) ・深草地域 第3回(1月21日) ・醍醐地域 第2回(2月24日)
22年度	●第4回委員会(7月6日) ・基本計画(素案)について ・パブリック・コメントの実施について ●第5回委員会(12月10日) ・基本計画(案)について	◎パブリック・コメント(8月16日～9月15日) ※愛称同時募集

伏見区基本計画策定委員会名簿 (敬称略)

氏名	役職等	氏名	役職等
井口 富夫	龍谷大学地域創造研究センター副センター長	◎橋爪 紳也	大阪府立大学教授
池田 忠夫	伏見区住民円卓会議(下鳥羽・横大路・納所・淀地域)座長	馬場 次代	公募委員
石本 正宣	伏見商店街連盟会長	福井 義定	伏見区住民円卓会議(向島地域)座長
市川 英治	月桂冠株式会社取締役総務部長	水野 菊代	公募委員
岩井 義男	伏見区住民円卓会議(醍醐地域)副座長	○村井 信夫	伏見区市政協力委員連絡協議会世話人代表
大川 保	伏見区住民円卓会議(久我・久我の杜・羽束師地域)座長	山本 和仁	京エコロジーセンター・エコサポーター省エネ普及ネット・京都事務局長
岡谷 陽子	伏見区体育指導委員会副幹事長	～平成22年7月	
尾崎 進	京都市農業協同組合深草支部長	田中 昭延	伏見区社会福祉協議会事務局長
加藤 博史	龍谷大学短期大学部教授	平成22年7月～	
木田 里加	公募委員	柏原 常宏	伏見区社会福祉協議会事務局長
後藤 景子	奈良女子大学生生活環境学部教授	～平成22年12月	
坂田 吉春	高松伸建築設計事務所取締役総務長	武村 辰憲	京都伏見工業会会長 双和電機株式会社代表取締役
信部 尚平	伏見区住民円卓会議(深草地域)座長	平成22年12月～	
三木 善則	伏見区文化協議会会長	大窪 茂	京都伏見工業会会長 株式会社エイコム代表取締役
田多 耀子	前伏見区地域女性連合会副会長	<顧問>	
仲田 順英	醍醐寺総務部長	北島 誠一	伏見区長
永山 邦明	伏見観光協会専務理事	岡田 秀人	深草担当区長
野村 武嗣	住民円卓会議(旧伏見市・竹田・桃山地域)座長	岡崎 弘	醍醐担当区長
朴 実	音楽家		

◎は座長, ○は相談役



発行：伏見区役所区民部総務課（企画広報担当）
〒612-8511 京都市伏見区鷹匠町 39-2
TEL：075-611-1295
FAX：075-611-4716
京都市印刷物第●●●●●号